

2018(平成30)年12月



公益財団法人 長崎平和推進協会
<https://www.peace-wing-n.or.jp/>

- 第6回核兵器廃絶 - 地球市民集会ナガサキ
- アジアの若者による平和ネットワーク構築プログラム
- 海外原爆展 ■ 国連軍縮週間 市民のつどい
- 市民対象碑めぐり by 継承部会 ■ 第32回外国人と市民の集い by 国際交流部会
- 協会設立記念事業「松瀬 学氏講演会」のお知らせ ■ 会員の広場
- TOPICS! (長崎平和推進協会 LINE 開設 ほか)



市民のつどい (原爆資料館前階段下広場)



第6回 核兵器廃絶 - 地球市民集会ナガサキ

11月16日から18日までの3日間、「第6回 核兵器廃絶 - 地球市民集会ナガサキ」が開催され、開会・閉会集会や4つの分科会、特別企画、その他NGOブースや自主企画、ピースウォークなどのイベントに延べ3580人が参加しました。

北東アジアの非核化をテーマとした分科会1、核兵器禁止条約をテーマとした分科会4においては、国内外のパネリストに加え、外務省の「核軍縮の実質的な進展のための賢人会議」の委員である核軍縮の専門家4人がパネリストとして参加し、議論の活性化へとつながりました。

分科会2では、第1部として「被爆の継承／ヒバクシャの想いに学び・伝える」をテーマに、被爆者・被爆三世・海外の平和活動家が発表し、会場の参加者と意見交換を行いました。第2部の被爆継承サロンでは、継承活動をしている小規模団体、個人が活動紹介を行いました。

また、「次世代とつくる核なき世界」をテーマとした分科会3においては、市内の大学生の企画のもと、県外3人、海外17人の大学生のほか、高校生も多く参加し、核兵器廃絶の共通の目的をもってそれぞれ活動している若者たちのネットワークの仕組みづくりが提案されました。

最終日には、集会の集大成として「長崎アピール2018」を採択しました。



- 長崎アピール 2018 (骨子) -

- 1 世界の全ての国に核兵器禁止条約の早期批准と核不拡散条約（NPT）第6条の誠実な実行を要請し、中でも米国とロシアの核兵器削減のための対話と軍縮交渉の開始を強く要請する。
- 2 核抑止力に依存する全ての国に対し、核兵器の役割を低減・廃棄し、「地球市民の安全保障」に基づく安全保障政策への転換を要請する。
- 3 最近の南北対話、米朝対話の進展を心より歓迎し、対話の中での約束を忠実に履行するとともに、北東アジア非核兵器地帯の設立に向けて交渉開始を要請する。
- 4 被爆者人口が減少する中、若い世代のイニシャティブに勇気づけられた。全ての世代が被爆者の悲劇的な経験を次の世代に継承していくことを要請する。
- 5 唯一の戦争被爆国として日本は核兵器依存を終了させ、核兵器禁止条約の署名と北東アジア非核兵器地帯を促進する努力を真摯に行うことを要請する。

長崎平和推進協会は、NGO ブースへ出展し、協会の活動紹介や被爆証言映像を上映しました。平和のメッセージコーナーも設置し、子どもたちが思い思いのメッセージを残してくれました。

また、「被爆体験を語り継ぐ 永遠の会」が、福田須磨子さんなどの被爆体験記を朗読し、来場者は熱心に耳を傾けていました。





アジアの若者による平和ネットワーク構築プログラム



被爆遺構碑めぐり



分科会に参加



最終ディスカッション

帰国後、
どのように
実施したかを2月の
ピースネットで
報告発表！

追悼平和祈念館では、アジアの若者たちが平和について考え、ネットワークを構築するための事業を行っており、今年は11月13日から20日にかけて、マレーシア、韓国、中国から学生、教官を招聘しました。

9回目を迎えた今回は、「核兵器廃絶」地球市民集会ナガサキに合わせて実施し、分科会に参加することで、専門家や平和活動を行っている方々の想いを聞くことができました。特に「次世代とつくる核なき世界」をテーマとした分科会には、3か国の学生代表もパネリストとして意見を発表し、その後、テーブルに分かれ、国や世代の垣根を越えて英語を駆使しながら議論を交わしました。

地球市民集会への参加のほか、原爆資料館や追悼平和祈念館、長崎大学の原爆医学資料展示室の見学や被爆遺構碑めぐりを行い、最終日は、「自分たちが考える平和への取り組み」について発表してもらいました。

帰国後は、それぞれが提案した課題に取り組み、その成果は2月のピースネットで発表します。

最終ディスカッション「自分たちが考える平和への取り組み」

最終日には、地球市民集会に参加して、「核兵器廃絶を実現するために、これから自分たちが取り組んでいく課題」を5項目発表してもらいました。



- ① 家族や友人に自分の意見を伝え、お互いの認識や情報を共有する。
- ② 周囲の人間の多種多様な考え方を受け入れる。
- ③ 平和ボランティア活動など、私たちが日常でできる最善を尽くす。
- ④ 図書館等で日中間の正しい歴史や事実を学び、平和への姿勢を構築する。
- ⑤ 多角的なテレビ番組やSNS等で有益な情報を集める。



- ① 各国の若者間の協力によるネットワーク基盤を作る。
- ② 音楽や絵画、ネイルアートなどによるアート・パフォーマンスで平和を伝える。
- ③ 授業に平和学習を積極的に取り入れ、平和研究の時間を作る。
- ④ 今回の APN プログラムの活動内容を記したブログを開設する。
- ⑤ 被爆者や専門家へのインタビューを行う。



- ① 無知をなくすため、平和教育を見直す。
- ② 環境汚染による病気のリスク、農業への影響などを考える。
- ③ いろんな政治家の核廃絶に対する考え方を知る。
- ④ 国家セキュリティの実相を、メディアを通して学ぶ。
- ⑤ 平和を伝えるメッセンジャーとしての役割を、SNSを通じて行う。

海外原爆展 in ポルトガル



追悼平和祈念館では、被爆60周年の平成17年度から毎年海外原爆展を開催しています。

本年度は10月1日から11月30日まで、ポルトガル共和国ポルト市で開催しました。ポルト市役所1階を展示会場とし、照明や音響効果も使つて被爆の実相と平和の尊さを伝えました。

継承部会員の三瀬清一朗さんが、ポルト市ではポルト大学などで4回、首都リスボン市ではカトリック大学などで原爆ポスター展開催と合わせて2回、合計6回、被爆体験を話しました。いずれの会場でも活発に質問が寄せられ、終了後は三瀬さんとの握手や写真撮影を求める人たちが長蛇の列を作るなど、大盛況の講話となりました。

また、今回は海外原爆展の関連イベントとして初めて、家族・交流証言者の吉田睦子さんが講話を、被爆体験記朗読ボランティアの前川智子さんが朗読をポルト市、リスボン市、カスカイス・エストリル地方の学校などで行いました。

サラジアンノ学校では、冒頭に数人の高校生が日本についてのプレゼンテーションを行い、その後行った被爆の実相を伝える講話と朗読に、約300人の高校生が熱心に耳を傾けていました。



国連軍縮週間

市民のつどい

国連軍縮週間（10月24日～30日）の土曜日に合わせて毎年実施している「市民のつどい」を、今年も10月27日に開催しました。

昨雨が雨天だったため、今年こそはと願いを込めて、事務局職員で、てるてる坊主を作りましたが、前日は雨。どうなることかと心配しましたが、一夜明けると爽やかな秋晴れが広がり、子どもから年配の方まで多くの方にご来場いただきました。

会場には、エコ風船、原爆写真展、折り鶴、ミニコンサートの各コーナーのほか、長崎県地域婦人団体連絡協議会長崎市婦人会と活水高校・中学校のみなさんによる戦時食コーナー、紙しばい会による紙芝居コーナーもあり、綿菓子・ポップコーンコーナーでは行列ができるなど、大変賑わいました。

また、今回は戦時中の精米体験コーナーも設置し、子ども達も挑戦しました。

この「市民のつどい」に参加して、あらためて戦争・原爆・平和について考える良い機会になったのではないのでしょうか。



この度、海外原爆展の被爆体験講話者として大役をお受けしました。最初の学校では、童謡「鯉のぼり」で歓迎していただくなど、全校あげての受け入れに感激しました。ポルト大学の講話会場には大学生を中心に、一般市民も参加し、廊下にも溢れるほどの超満席。立錐の余地のない中で、講話となりました。

リスボン市では、「日本の若者の平和に対する考えを知りたい」との質問に高校生平和大使の話題を取り上げたところ、男子学生4人が「自分たちもアクションを起こさねば」と共感してくれました。

このような機会をいただき、平和の大切さを共有する時間を持てたこと、国により考えの違いはあっても、核廃絶の必要性は世界の課題であることを認識しました。



三瀬 清一朗氏
被爆体験講話



家族・交流証言者として、被爆者・末永浩さんの被爆体験を中心に、長崎原爆や被爆の実相、被爆者の苦しみ、核兵器のない世界の実現に向けた活動の必要性などをお話ししました。

原爆展会場となったポルト市庁舎の他、学校や図書館で合計5回、講話を行いました。講話の会場でも関心が高く、熱心に聞いてくださいました。また事前学習等も行っていただき、質疑応答や日本の若者に関する疑問も多く寄せられました。

今回が海外で、また英語で行う初めての講話となり緊張しましたが、無事に終えることができました。「このような機会を増やし、子供達に吸収させたい」との声もあり、今後も続けていければと思います。



吉田 睦子氏
家族・交流証言

私は被爆体験記や紙芝居、核廃絶と平和のメッセージを、日本語または英語で朗読しました。パワーポイントを用いて、被爆前後の長崎の街の様子などの写真を写しながら、今村政子さんと辻本一二夫さんの体験記を朗読すると、熱心に聞いてくださいました。また、「日本の若者は原爆の知識がない」とインターネットに書いてあったが、何故か」などの質問もあり、多方面から回答しました。

ある学校では朗読前に、生徒が日本文化についてのプレゼンテーションをしたり、歴史や物理の授業の中で原爆についての事前学習を行うなど、綿密な準備に感激しました。

ポルトガル在住の日本人の方々からも協力をいただき、充実した朗読活動ができたと思います。



前川 智子氏
被爆体験記朗読



一升瓶を使った精米

昭和16年からの配給制では玄米等が中心でしたが、精米率が低いために消化が悪く、味も劣りました。各家庭では、美味しく食べられる米にするため、一升瓶に玄米を入れて棒で突き、米の摩擦で周囲の皮を取り除く精米作業を行いました。



- 五穀飯・大根飯
- 羊団子
 - 野草の天ぷら
 - ふかし芋

今年、大根飯や野草の天ぷら等の戦時食の試食のほか、一升瓶を使った精米体験コーナーを設けました。なかなか白米にならない地道な作業に、今の当たり前前前の生活に対するありがたみを感じることができました。

戦時食コーナー



市民対象碑めぐり by 継承部会

コース

西浦上国民学校

▼
二郷橋

▼
稻積神社

▼
長崎師範学校



継承部会の原爆遺跡研修班が主催する「市民対象碑めぐり」を9月16日に開催し、約40人が参加しました。

今回は、まず西浦上小学校体育館に集合し、プロジェクトで当時の航空写真等を投影しながら、周辺の被爆状況の説明が行われました。その後、稲積神社に移動し、山田一美さんが「あの日、少し前まで友達と将棋をしていたが、その友達は川に泳ぎに行き、被爆して死亡した。自分も外出していたが、この稲積神社の陰で熱線を受けずに生き残った」と、一瞬の運命が人の生死を分けたことを話しました。さらに長崎大学附属中学校に移り、築城昭平さんが「自分は師範学校の寮で就寝中に被爆した。建物は全壊し、助け出されて生き残った。その当時の人で、生き残っているのは私だけ」と話し、その他にも継承部会の方が被爆の体験を語りました。

このように、被爆した場所で、被爆者からその体験を聞くことができるのは、大変貴重な時間で、参加した市民の中には「被爆者から直接話を聞けて良かった。この経験を被爆継承に活かしたい」と語る方もいました。

第32回外国人と市民の集い by 国際交流部会



国際交流部会は、毎月「国際交流の夕べ」も開催しています。興味のある方はご連絡ください！

国際交流部会が毎年開催している「外国人と市民の集い」は、5人の外国人の方が日本語で話す集まり。Q&Aの時間もたっぷりあり、話が盛り上がるのが魅力です。32回目を迎える今年は11月10日に開催し、アメリカ、オーストラリア、イギリス、スペイン、中国から例年より多い6人のスピーカーが参加し、様々な話をしてくれました。

ブラッドさん(豪)は、「嘘も方便」などの言葉が人の気持ちを持ちを優しくさせていると微妙なところを語り、ハミッドさん(英)は、失くしたお金に戻ってきたし、バスに乗り間違えてもちゃんと案内してくれたなど、感動体験を話しました。

また、パチさん(西)はスペインのある地方にはハボン(スペイン語で日本のこと)という名前の方がいるが、これは日本との繋がりを示していると教えてくれました。来場者が気楽に質問が出来る楽しい集いになりました。



スポーツジャーナリスト・ノンフィクション作家

松瀬学氏講演会「平和とスポーツ」

— ラグビーワールドカップ 2019  に向けて —

2019

2/10 日

14:00

開演
開場

13:30

(終演予定 15:30)

当協会では、会員の皆さまに平和への想いをさらに強くしてもらうこと、また協会活動を広く知ってもらうことを目的に、毎年講演会を開催しています。

2019年はラグビーワールドカップが日本で開催され、2020年には、東京オリンピック・パラリンピックが予定されています。世界規模のスポーツの祭典を前に、早稲田大学ラグビー部で活躍されたスポーツジャーナリスト・松瀬学氏が「平和とスポーツ」について熱く語ります。是非ご応募ください。

場所 長崎原爆資料館ホール (長崎市平野町 7-8)

入場料 無料 (郵便はがきによる応募が必要です)

まつせ まなぶ
松瀬学さん

1960年長崎県生まれ。

福岡・修猷館高校、早稲田大学ではラグビー部に所属。1983年、共同通信社に入社。2002年に同社退社後、ノンフィクション作家に。

日本文藝家協会会員。元RWC広報戦略長。現・日本体育大学准教授。著書は「汚れた金メダラー 中国ドーピング疑惑を追う」「スクラム」など多数。

応募方法

郵便はがきに「郵便番号」「住所」「氏名(フリガナ)」「電話番号」、および当協会会員は**会員**と朱書きし、下記までお申込みください。

〒852-8117 長崎市平野町 7-8 長崎平和推進協会「講演会」係

- はがき1枚につき、1人の応募となります。
- 協会会員に限り、はがき1枚で2人まで応募できます。
- 協会会員で2人応募する場合は「2人希望」とお書きください。

応募締切 平成31年1月25日(金) 当日消印有効

★応募者多数の場合は会員優先のうえ抽選となります

ラグビーのスコットランド代表が 長崎市にやってくる!!

2019年9月中旬、ラグビーの強豪国スコットランド代表が長崎市でキャンプを実施することになりました。スコットランドは長崎で活躍した貿易商、トーマス・グラバーの出身地であり、スコットランドのアバディーン市は、長崎市と市民友好都市を結んでいます。



NO. 7



お便りをお寄せください!

平和推進協会では、会員の皆様よりお便りを募集します。会報をご覧になってのご意見、ご感想、お便りなど、会員の皆様の声をお寄せください。投稿いただいた声は、広報委員会を経て、「会員の広場」で会報「へいわ」に掲載させていただきます。投稿は300字以内をお願いします。また、匿名の投稿はご遠慮ください。

E-mail : info@peace-wing-n.or.jp

〒852-8117 長崎市平野町 7-8

長崎平和推進協会「会員の広場」係

11月に「核兵器廃絶—地球市民集会ナガサキ」が開催され、世話人の一人として参加したが、参加して分かることが沢山あることを実感した。はまり込むほど楽しくなる、長崎に居ながらして一般の人たちが「壁」を感じずに自由に参加できる国際会議はあまりない。「踊る阿呆に見る阿呆」と言うのが参加型の方が何倍も楽しい。

会報には様々な行事などが紹介されていて、誰でも参加できるものもある。千羽鶴の解体・仕分け作業のボランティアたちの楽しそうな顔がとても印象的。外国人に折り鶴を教えながら平和につながるという言葉のも素敵なことに想える。

会員も会員以外の人たちも参加型で活動が盛り上がりやすいと思っています。

吉田睦子

Peace Wing Nagasaki
会員の広場

10月15日、トランプ米大統領宛に 核爆発を伴わない臨界前核実験に対する抗議文を送付しました

抗議文

貴国が、昨年12月、核爆発を伴わない臨界前核実験を西部ネバダ州で実施したとの報道に接しました。

報道どおりであれば、今回の臨界前核実験は、今年2月の「核態勢の見直し(NPR)」の公表前に実施されたものの、NPRにおける「核兵器の役割拡大」の方針を推進するものであり、貴国の姿勢を示したものと考えます。

被爆地長崎において官民一体となり核兵器廃絶・世界恒久平和の実現を目指している私ども「公益財団法人長崎平和推進協会」は、二度と自分と同じ悲惨な体験を世界中の誰にもさせてはならない」と核兵器廃絶を訴える被爆者の声に耳を傾けることなく、核兵器の役割を強化する貴国の行為に対し、強い憤りを感じます。

ここに、被爆地長崎の平和推進協会理事長として、今回の臨界前核実験に強く抗議すると同時に、私どもの切なる訴えをお聞き届けいただき、全ての核兵器関連の実験を放棄して、地球上から核兵器をなくすため共に歩んでいただくよう要請いたします。

被爆体験を語り継ぐ 永遠の会 第12回定期朗読会 埋もれた体験記を読む～私はこの場所で被爆した～



追悼平和祈念館に収蔵されている「被爆体験記集(通称:黒本)」より、長崎市、時津町、長与町で被爆された8人の体験記を朗読します。ぜひご来場ください。

日時: 2月17日(日) 14:00～15:00
場所: 追悼平和祈念館 交流ラウンジ

【問合せ】追悼平和祈念館 ☎ 095-814-0055



長崎平和推進協会 LINE 始めました!

毎週月曜日に、最新のイベント情報や書籍販売の新刊案内、事務局からのお知らせなどを発信していきます。是非、**友だち追加**をお願いします。



QRコード

【問合せ】

長崎平和推進協会 ☎ 095-844-9922

世界の核弾頭の数 (2018年6月1日現在)

ロシア	米国	フランス	中国	英国	イスラエル	パキスタン	インド	北朝鮮	合計
~6,850	~6,450	300	270	215	80	~140	120~130	10~20	~14,450

長崎大学核兵器廃絶研究センター(RECNA)提供 <http://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/>

会員数報告

- ◎維持会員 1132人
- ◎賛助会員 150人
- ◎学生会員 12人

(平成30年12月16日現在)

賛助会員(団体・法人)の一覧は協会ホームページに掲載しています。ご支援・ご協力誠にありがとうございます。

寄付者紹介

ありがとうございます

- ◎川上 正徳 (敬称略) 一万円
- ◎Mike Hastie 一万円
- ◎山脇学園高等学校2年C組有志 四、四九二円
- ◎Dale Hamilton 千円
- ◎匿名七人 三九、一〇〇円

会費納入のお願い

当協会の活動は皆さまの会費に支えられています。

今年度まだ会費を納めていない方は、何卒趣旨をご理解いただき、先にお送りしている払込票により最寄りの郵便局で納入ください。よろしくお願いいたします。

お支払いただいた会費は、源泉所得税の税額控除の対象になります。詳しくは当協会ホームページをご覧ください。事務局までご連絡ください。

